

## 独学と協調学習を支援するチュータ育成用オンライン教材の開発： 柔軟かつ体系的な学習環境の設計

### Development of an Online Tutor Training Material Supporting Self-Directed and Collaborative Learning: Designing a Flexible and Structured Learning Environment

合田 美子<sup>\*1</sup>, 椿本 弥生<sup>\*2</sup>, 石毛 弓<sup>\*3</sup>

Yoshiko GODA<sup>\*1</sup>, Mio TSUBAKIMOTO<sup>\*2</sup>, Yumi ISHIGE<sup>\*3</sup>

<sup>\*1</sup>熊本大学大学院教授システム学専攻 +

<sup>\*1</sup>Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

<sup>\*2</sup>東京都立大学

<sup>\*2</sup>Tokyo Metropolitan University

<sup>\*3</sup>大手前大学

<sup>\*3</sup>Otemae University

Email: ygoda@kumamoto-u. ac. jp

**あらまし**：本研究では、大学のチュータ育成における研修機会の不足を補うため、学生が独学で学べるオンライン教材を開発した。チュータリングに必要な12のトピックを設定し、動画・学習ノート・ワークシートを組み合わせてモジュール化した。また、教材は協調学習にも活用できるよう配慮した。今後は、専門家や学習者による形成的評価を通じて教材の改善と有効性の検証を進める。

**キーワード**：チュータリング、オンライン教材、ピアサポート、自律学習支援

#### 1. はじめに

近年、大学における学習支援の一環として、ピア・チュータリングの導入が進んでいる。授業外学習の支援や学修コミュニティの形成において、チュータの果たす役割は大きい。育成・配置の仕組みには大学間でばらつきがある。特に、体系的なトレーニングプログラムや業務基準が整備されていない例が多く、一部の大学では米国 CRLA (College Reading & Learning Association) <sup>(1)</sup> の認証を活用しているものの、大半はアルバイト雇用に関する説明のみにとどまっているのが現状である。また、現役学生がチュータを担う場合が多く、時間的制約から集合研修の実施も難しい。こうした課題をふまえ、本研究では、チュータが業務の前後や業務中に、必要な知識・スキルを独学で習得できるよう、12のトピックに基づく動画・学習ノート・ワークシートを備えたオンライン教材を開発した。今後は、専門家・学習者による形成的評価を通じて、教材の改善と実用性の検証を進める予定である。

#### 2. ニーズ分析と教材開発の方針

教材開発に先立ち、学内外のチュータリング実践や先行研究を参照し、現役チュータや支援担当教員に対してヒアリングを行った。その結果、多くの大学において以下のような課題が明らかとなった。第一に、チュータ研修の機会が限られており、体系的に学ぶ機会が乏しいこと。第二に、チュータの多くが現役学生であるため、集合研修への参加が時間的・物理的に難しいこと。第三に、研修が行われても一過性に終わり、実際の業務に活用しづらいこと

が挙げられた。

これらのニーズを踏まえ、本研究では、①チュータとして業務に就く前後に自律的に学べること、②体系的かつ柔軟に学習できること、③研修だけでなく業務中のリファレンスとしても使えることを目指して、オンライン形式によるモジュール型教材を開発する方針とした。

#### 3. 教材のデザインと工夫

本教材は、チュータリング初心者の学生が自律的に必要な知識・スキルを習得できるよう、モジュール型の構成と多層的な教材形式を組み合わせで設計した。対象は主に、大学で初めてチュータ業務に就く学部学生であり、集合研修への参加が難しい環境でも、個別の時間や関心に応じて学習できるよう配慮している。

内容は、チュータリングに必要な12のトピックを独立した学習単元として構成しており、各トピックには行動目標を明記した。これにより、学習者が各回の目的を理解しやすくなり、自己評価や振り返りを行う際の指標としても活用できる。トピックの選定には、国内外のチュータ育成プログラム（例：CRLA<sup>(1)</sup>）やメンタリングのガイドライン（例：渡邊ほか、2014<sup>(2)</sup>）を参考にし、基本的かつ汎用性の高い内容を取り入れている。

教材は、5～10分程度の短い動画と、要点を箇条書きで整理した学習ノートを組み合わせで構成されている。動画では各トピックの要点を視覚的・聴覚的に提示し、短時間で集中して学習できるよう編集している。学習ノートは、動画を視聴できない環境や

復習の際にも使えるよう、要点が簡潔にまとめられており、メモ欄や補足情報も記載している。ノートと動画の併用により、理解の定着を促し、繰り返し学ぶことが可能となる。

さらに、各トピックには対応するワークシートを設けており、学習内容を自己の経験や業務と結びつけて内省し、実践への応用ができるよう設計している。これらのワークシートは、個人での活用に加えて、ペアやグループでのディスカッション教材としても使用でき、対面型研修への転用も想定している。特に、対話的な振り返りやケース検討を行う際に有効である。

本教材の独自性としては、すべての教材がオンライン上で自由にアクセス可能であり、学習者が任意のトピックから順不同で学べる点が挙げられる。これにより、業務前の予習、業務中の確認、業務後の振り返りといった各場面での「可搬性のあるリファレンス教材」としての活用が可能となっている。図1には、動画・学習ノート・ワークシートからなる教材構成の一例を示す。

今後は、学習支援やチュータリングの専門家、実際の学習者からの形成的評価を実施し、内容の改善や表現の明瞭化、構成の再調整などを行う予定である。これにより、より実用的で継続的に活用可能な教材への発展を目指す。

#### 4. まとめ

本研究では、大学におけるピア・チュータリングの質的向上を目的に、現役学生が独学で基本的な知識とスキルを習得できるオンライン教材を開発した。教材は12のトピックによるモジュール型構成とし、動画・学習ノート・ワークシートを組み合わせ、学習者の状況や目的に応じた柔軟な学びを支援する。各トピックの修得を可視化し、デジタルバッジ等を活用したマイクロレデンシャルの導入も視野に入れている。

本教材は、業務前の予習、業務中の確認、業務後の振り返りなど多様な場面で活用でき、可搬性のあるリファレンス教材としても機能する。今後は、実際の育成プログラムに導入し、専門家や学習者による形成的評価を通じて改善と実用性の検証を進め、他大学・他領域への応用も含めた発展を目指す。

表1 教材の12トピック

	トピック	学習内容
1	チュータリングの定義とチューター責任	チュータリングの基本的な定義とチューターの役割を理解し、自身の職務の意義を明確化する。業務内容を他者に説明できるようになることを目指す。
2	チュータリングの基本ガイドライン	チューターとして活動する際の基本的な姿勢や注意点を学ぶ。大学で定めるガイドラインや倫理規範の重要性を理解し、適切な行動判断を支援する。
3	チューターセッションの開始および終了の技法	チュータリングのセッションをどのように始め、どのように終わるべきかを学び、円滑なセッション運営のための基本スキルを習得する。
4	成人学習者の学習スタイル(傾向)	チューター対象となる学生が成人学習者であることを前提に、学習スタイルや動機づけの傾向を理解し、個別対応の基礎とする。
5	困難な状況への対処	チュータリング中に起こりうる困難なケース(無反応、過度な依存、不適切な態度など)を理解し、適切に対応するためのスキルを養う。
6	ロールモデル(模範)	チューター自身が学生の模範となる存在であることを意識し、ふさわしい態度や行動を選択できるよう、自己点検の視点を学ぶ。
7	タイムマネジメント/学習計画作成	チューター(被支援学生)の時間管理や計画作成をサポートするために必要な知識を学ぶ。失敗要因の特定と対策提案のスキルも含む。
8	コミュニケーションスキル	チュータリングにおける基本的なコミュニケーションスキル(傾聴、共感、非言語的対応など)を理解し、信頼関係構築の基盤をつくる。
9	傾聴と言い換え	「聞く」だけでなく、相手の発言を整理・確認しながら言い換えるスキルを学ぶことで、対話の深化と誤解の防止を図る。
10	リフェラルスキル	チューター自身の対応が難しい場合に、適切な学内支援機関へつなぐ(リフェラル)判断力と紹介の方法を学ぶ。
11	批判的思考力のスキル	チュータリングにおいて、事実と意見を区別しながら冷静に問題を捉える思考力を学ぶ。支援者としての姿勢を理性的に保つ力を養う。
12	チュータリングと倫理	チュータリングに求められる倫理的配慮(守秘義務、公平性、権力関係など)を理解し、実践場面で適切に行動できるようにする。



図1 オンライン教材、学習ノート、ワークシートの例

本研究は JSPS 科研費 JP24K15221 の助成を受けたものです。

#### 参考文献

- (1) College Reading and Learning Association. (2019). *International Tutor Training Program Certification (ITTPC) Program Certification Guidelines*. <https://www.crla.net>
- (2) 渡邊浩之, 鈴木克明, 戸田真志, 合田美子. 2014. チュータリングガイドラインの開発と形成的評価について. *リメディアル教育研究*, 9 巻 2 号 p. 161-172, DOI [https://doi.org/10.18950/jade.9.2\\_161](https://doi.org/10.18950/jade.9.2_161)